平成二十八年度

日本近世文学会秋季大会

- 大会プログラム
- 研究発表要旨
- ・ラウンドテーブル趣意文

期日 十一月十二日(土)・十三日(日)・十四日(月)

₹ 390 8621 信州大学松本キャンパス (人文学部講義棟・人文学部経法学部講義棟 長野県松本市旭三―一―一

- 、出欠の葉書を十月十四日(金)必着でお出しください。欠席の場合も、 名簿台帳の資料といたしますので、必ず投函してください。
- 出張依頼状を御入用の方は、職名・提出先及び期間を明記の上、学 会事務局(学習院大学文学部)へお申し出ください。
- 、大会経費は、参加費千円、懇親会費六千円です。
- 、送金は同封の振替用紙(口座番号〇〇五五〇—八—一〇二七一六、 までに振り込みをお願いいたします。なお、振替用紙には、必ず内 口座名「日本近世文学会秋季信州大学大会」)で、十月十四日(金)
- 、大会二日目(十一月十三日)日曜日の昼食に弁当(千円)を用意い たしますので、ご希望の方は同封の振替用紙でご送金ください。

訳を御記入ください。参加費のみの方は、当日会場でも申し受けます。

- 、大会に不参加で、発表資料をご希望の方は、出欠葉書の当該欄に御 記入の上、同封の振替用紙にて、資料請求代千円を払い込んでくだ
- さい。大会終了後、資料を郵送いたします。

、三日目(十一月十四日)の文学実地踏査は、特に専用貸切バス等の用意

- お回りください。 はいたしません。資料を用意いたしますので、各自・各グループで
- 、同封の振替用紙による年会費の振り込みはできません。 込用紙は『近世文藝』の末尾に綴じ込んでいます。

年会費の振

宿泊等については、各自、早めにご手配ください。

、会場受付にて「託児料金補助申請書」を配布いたします。該当する

、お急ぎの御用は左記へ御連絡ください。

会員の方はお受け取りください。

日本近世文学会秋季信州大学大会事務局 信州大学人文学部研究棟 速水香織研究室

メールアドレス khayami@shinshu-u.ac.jp 〇二六三—三七—二二七八 (直通) 長野県松本市旭三―一―一

日本近世文学会秋季大会のご案内

会員の皆様には時下ますますご清祥のことと存じます。

さて、平成二十八年度秋季大会を左記の通り開催いたしますので、ご案内申し上げます。

平成二十八年九月三十日

会 信州大学松本キャンパス

行 事

第一日 十一月十二日(土)

委員会 (一二・二〇~一三・四〇)

委員会会場 人文学部経法学部講義棟六階人文学部大会議室

開会時間 (一四·〇〇) 大会受付 (一三·〇〇)

研究発表会(一四・一〇~一六・三〇)

研究発表会会場 人文学部経法学部講義棟一階第一講義室

1 『伊曽保物語』 版本系統の再検討― (B) 系統版本の本文比較を中心に—

2 芭蕉と牡丹

3 家集を出版すること――賀茂季鷹 『雲錦翁家集』を巡って―

4 三藐院近衛信尹筆渡唐天神像について

숲 (一八:00~二0:00

懇親会会場 〒390 - 815 長野県 深志神社梅風閣 長野県松本市深志三―七―四三 三階「飛梅の間

電話 〇二六三一三二一六三一〇

> 日本近世文学会秋季大会会場校代表 速 木 水 健 香 織

[事務局連絡先]

本

近世文学会事

務

局

代表

171 8588 東京都豊島区目白一—五—一

学習院大学文学部日本語日本文学科 鈴木健一研究室

電 F A X 〇三―五九九二―九三一七 ○三─五九○四─九二九一

e-mail info@kinseibungakukai.com

東京大学(院) 李 澤 珍

中部大学 尚 本

大手前大学 \mathbb{H} 子 聡

京都女子大学 大 谷 俊 太

第二日 十一月十三日(日)

大会受付(九·三〇)

ラウンドテーブル (一〇・〇〇~一二・一〇)

ラウンドテーブル会場 人文学部講義棟二階第一・二・三講義室

В 世話・人情話・メロドラマ

近世文学研究の黎明

(各部屋の割当は会場にて御確認ください) 泰至 (司会)、木越 治、池澤

朝鮮通信使への新しい視角―宝暦使行(江戸時代、第十一回)を中心に―

木越

俊介 井上

(司会)、今岡

謙太郎、

佐藤

至子、

加藤 高橋

敦子、板坂

耀子

郎、

圭一、浅田

徹

染谷 智幸 (司会)、金 文京、近衞 典子、 康 盛国

昼 休 み (一二・一〇~一三・三〇)

編集委員会会場(人文学部経法学部講義棟三階三一三演習室

研究発表会(一三・三〇~一五・四〇)

研究発表会会場(人文学部経法学部講義棟一階第一講義室

「小三金五郎物」の変容と特色―江戸における作品を中心に―

5

6 『西鶴諸国はなし』「狐の四天王」試論—『狐の草紙』・越後騒動との関係から—

7 〈宮本武蔵もの〉実録の展開

名古屋書肆永楽屋東四郎の出板

8

愛知県立大学 同朋大学 部 宅 宏

> 幸 助 暁

関西大学

(院)

黒

豊橋創造大学

 \mathbb{H} 澤

大

閉 会 (一五・四〇)

第三日 十一月十四日(月)

文学実地踏査 資料を用意いたしますので、各自・各グループでお回りください。 図書展示 信州大学蔵貴重書展

十一月十一日(金)~二十五日(金)

図書館の開館時間中、 原則として、平日八・四五~二二・〇〇、土・日・祝一〇・〇〇~一九・〇〇 自由にご観覧いただけます。開館情報は信州大学附属図書館ホームページでご確認ください。

場所 信州大学附属図書館 (中央図書館) 一階展示・地域交流コーナー

『伊曽保物語』版本系統の再検

系統版本の本文比較を中心に

種本→ 年刊本 寛永十六年刊本の本文中には、第五種本を経由せずに、第 は、第五種本に拠ったものとされてきた。しかし再検討の結果、 しがたい部分が少なからずある。特に従来、寛永十六年刊本 みると、 から第二・四・七種本の(A)系統と、第五・六種本・ ている。版本全十一種の相互関係について、 いうのが従来の通説的理解(森田武『仮名草子集』等)であった。 年絵入り本と、同じ本文の無刊 本から得た影響が顕著に見られる。 しかし『伊曽保物語』諸版本の本文を厳密に比較対照し 本に 寛永十六年刊本(二種)→整版本(二種)では、 (二種)・整版本 (二種)の (B) 系統が存在する、 従来の(B)系統の流れ、すなわち第一種→第五·六 いたるまで九 種の古活字本と、 長 和 年 記 蕳 本) この初版 が、現在まで伝わっ 二種の整版 本か 無刊記 から、 寛永十六 第一種本 本 寛永十六 - (万治 説明 لح 7

たと推定され、 たと考えられ 0 さらに問題は、 関係であるが、管見では、両本に共通の〈祖本〉 した可能性が高いと思われる。以上をまとめると、(B) して新たな系統立てをし 本〉→第五種本→ る。 両 .本はその〈祖本〉からそれぞれのルートで 類似の本文をもつ第五種 本発表では『伊曽保物語』 祖 本〉→寛永十六年刊 第六種本の、二つの流れがあ その普及と受容のあ 本と寛永十六年刊 本→整版 諸版 本の があっ 本と、 本文 ŋ

> 、之宛ての元禄四年九月二十三日 良長の為に、 芭蕉は牡丹の花を去来 付 一芭蕉 0 兄を通 から、

は

牡丹の品質 べて掲載されているばかりではなく、計四百九十四種に版された『花壇地錦抄』(元禄八年刊)にはこれら四種に牡丹の上花を集めさせようとしたのだろうか。芭蕉の種である事がわかる。しかし、なぜ藤堂良長は芭蕉に この四種類全てが掲載されているが、『紫陽三月記』(元禄四 蕉と藤堂良長とのやりとりも意味を持って捉えら 年刊)には、これらがどれも掲載されておらず珍しい牡丹の品 は名前しか掲載されない。『刊誤牡丹鑑』(元禄二年刊)には、 丹名寄』(貞享五年刊)には、三種類は 堂良長に献上した花である。それ以前の牡 ゅけい」を加えた四種 する事になってい たも 他の中花三本をとりあえず用意したとある。 関係性を再 なびか」という三種類の牡丹の上花を藤堂良長に献上 、藤堂良長にとって主筋である藤堂高久の庭師伊藤三之治種が具体的に記述されている事が突出している。こ?載されているばかりではなく、計四百九十四種類もの のと考えられる。 た珍しい牡丹は、 たという 七 て集めた牡丹の 『花壇地錦抄』(元禄八年刊)にはこれら四種類がす により きしてみたい。 事がわかる。 出 た事が窺える。 版されたものである事を考える時、 類の牡丹の花が具体的には、 本発表では、 藤堂良長を通して藤堂高久に 調 その花が用意出来なかった 書簡によると、 査を通して、 芭蕉が藤堂良長より依 載るものの「なびか」 . 丹名鑑である『牡 「茂安、くら これに れる。 芭蕉が藤 就上さ 死後出 珍しい 堂家

家集を出版すること― -賀茂季鷹 『雲錦翁家集』 を

巡って 大手前大学 Ш

子

のは、 了し、板木料・家集仕立て代等を借金し、私財を投じて出版 長らく出版されないままであった。そのような状況を打開した から京のみならず、地方の季鷹門人からも熱望されていたが、 明治まで広く国内で享受された。雲錦集の出版は、 が千部で、その後蔵板者を変えながら幾度も増刷りされ、幕末・ 。以下、雲錦 [内外に所蔵されている賀茂季鷹 播磨在住の門人長治祐義で、天保三年十二月校合を終 集) の諸本調査によれば、雲錦集は初版 翁家集』 (天保二年 享和期頃 初刷

年間の、 の頃、 の間に、家集出版に対する季鷹の意識の変化がみられるのであ り入れていた季鷹にとって家集出版にはどのような意義が 門人という堂上派の歌人でありながら、地下古学の方法を取 堂上歌壇と地下歌壇のバランスの変容が可視化されてきた享和 難色を示され、頓挫したという。 読み合わせをして序跋を付け、季鷹に出版の伺いを立てたが、 頃 か) 集が出版された後の季鷹の意識についても、 菅原雪臣の雲錦集跋文によれば、三十年程 結局、天保年間に雲錦集は出版されるが、 生前に家集を出版した堂上歌人はいない。有栖川 松田 集過程 (京都市歴史資料館山本家文書) などから言及したい。 季鷹の家集出版に対する意識が原因のようである。そ 直兄等と共に、季鷹の詠草を収集して部立にし、 lから見えてくる祐義の雲錦集出版の意図 雲錦集の出版が難航したのは、 季鷹書き入れ本 前 (享和一、二年 ?あるの 宮家

三藐院近衛信尹筆渡唐天神像について

京都女子大学

が現存する。 幅天神」(『増訂古画備考』)とも呼ばれるほどに、多くの作品 絵としての面白さと省筆の瀟洒な筆致によって親しまれ、「百 筆と伝えられる渡唐天神像は、「天神」の文字で描かれた文字 藐院近衛信尹〈永禄八(一五六五)~慶長一九(一六一 四

賢自筆の一紙を紹介し、信尹の薩摩坊津左遷 を明らかにする。 の成立事情について、 との関わりが推測されるばかりで定かではなかった本天神像 の作成が信尹の夢に由来する旨を記 本発表では、 陽明文庫一 慶長十四年九月の成立であることなど 般文書中に伝わる、 した菅家の末裔、 (文禄三~ 尹筆天神像 慶長元) 清原秀

解明し、本作品が多く伝存する理由についても言及する。 書について合わせ考えることで、本図像の意味するところを わりが示唆されるところから、『天神大事 次に、 同資料中に、本像と「天神霊徳を記す秘文」との関 (天神秘 伝) なる

産としての本天神像の読解を試みる。 詩句が見られる。 ところで、本天神像の讃としては、 一画賛に込められた意味についても考察し、 いずれも天神詠とされているものであるが 数種の和歌あるいは漢

A 近世文学研究の黎明

発表者 司会者 防衛大学校 井 上 泰

金沢大学名誉教授 木 越 治

早稲田· 大学 池 澤 郎

大阪大谷大学 高 丰

お茶の水女子大学

徹

直してみることは、細分化への対処に何が必要か、そのヒン認められていなかった領域を開拓した先人の環境と構想を見 トを与えてくれるに違いない。 が失ってしまったもの んでこよう。 なのか?この 究はどのような環境 問いからは、 ï は何かという問題である。 緻 今日以 に発展し ・構想から生まれ デ た今日 の三つの問題 の近世文学研究 学問として 急意識 てきたも が浮

た面もあるだろうからである。 はない。当時の社会情勢や思考一般によって制約を受けてい は単に資料が掘り起こされていなかった、という問題だけで あ るいはできなかったことは何か、という問題がある。それ もう一つは、先人も誤っていたところ、見落としていたもの、

古典研究の常道に合わせて、集書という事業が 注釈と語 あ る。 最後は、 特に近世文学研究の場合は、 めていくか、 のりを確認することも、この常道をどう現代において 量の研 今も昔も変わらない学問の核となる問 大事なヒントを得られるのではない テキストの解釈とカノンの形成と テキストの整 加わってくる。 備 題の確認で および

至

そうである。 特に近世文学研究がどういう社会的要請に答えようとしたの か/しなくなったのか、 が、ともかく、 おそらく、その 大学の 先には明治から戦前までの、 制度の というより大きな問 中にあって近世文学研 |題の地平 国文学研究、 究を開 -があり

山口剛〔池澤一郎報告〕)と、そこから距離を置きながらも、郎〔木越治報告〕、京大=潁原退蔵〔高橋圭一報告〕、早大=拓してきた伝統のある三学統の代表的先人(東大=藤岡作太 関心から整理をしてもらい、上記の三つの点を浮かび上がら 徹報告]) 時に連携を取って活躍した在野の研究者(佐々木信綱 近世文学研究の今後を考えるよすがとしたい。 をも視野にいれ、各先人の事業について、 発表者の 〔浅田

В 世話・人情話・メロドラマ

司会者 山口県立大学 木 越 俊

介

発表者 武蔵野美術大学 今 尚 謙 太郎

H 1本大学 佐 至 子

福岡教育大学名誉教授 都留文科大学 加 板 坂 敦 子

か、

策として、「心理」と「模写」の重視があることは言うまでも 風俗」を描くことがあった。そして、その実現に向けての方 しているわけだが、その根幹には周知のように「人情」「世態 文体を含む複数の要素を踏まえ具体的な小説像を模索・提案 路を見出し、 『の姿をめぐって、「時代物語」ではなく「世話物語」に活 内逍遥は 更新していくことを提言してい 『小説神髄』下巻・文体論において、来るべき る。 逍遥は 構成

に息づいていることも事実であろう。 戸 の後の近代小説の主流となっていくのだが、これとは別に江 、時代以来の「世話物語」の要素は、 そこで、江戸時代における たしかに、 逍遥 の提示した小説像は試 〈世話〉を再検証することにより、 特に大衆的 行錯誤を経なが な娯楽の中 いらそ

ない。

について考えてみたい。 よび近代文学それぞれにおける、 世話物 可 7能な限り視野を広げてたどってみたい。その上で、「世 語」の属性を見極め、 の可能性と限界を探るとともに、近世の俗の領域 さらに明治以降の 人の描き方の根本的な違 〈世話〉 の系 お

> 少なくともアジア圏を視野に入れて考えることはできないの てみたい。 ロドラマの系譜 方を起点に、 ているものを探る。 などできるだけ敷衍して考えてみる。 が生 成 同時に、それは日本にのみ認められるものなのか、 江戸時代以降の文学や文化における人情話やメ 流 [をたどり、その受容・変容のさまをも考察し 布する過程を例としながら、 さらに、そこに見られる 戸時代における 世 話 、そこで重 〈世話 の中から、人 のあ 一視され

浄瑠璃 極的に参照項として加えながら、 ては必要に応じて、大衆娯楽 なるだろうが、 その際、以下のことに留意したい。 なお、具体的な対象としては、江戸時代におい (演劇) はもちろん、小説、舌耕(話芸) 右のような問題設定においては、近代につい (映画やTVドラマ)なども積 自由に意見交換してみたい。 . ては歌舞 などが主と

1 ここでは仮に「道徳と感情をめぐる諸 〈世話〉 般化して捉えることとする。 の特質を「義理と人情」という概念に固定せず、 相を描くも

2 えるか。このことは対象とする文芸・芸術様式にも関わっ 〈世話〉 てくると考えられる。 が本来的に備える口語との親和性をどのように考

③人物描写において、 代的な「心理」 限り明示する。 の掘り下げ方との具体的 行為から内面を示唆するあ な相違点をできる り方と、近

④ここで取りあげられると予想される作品群 いう陥 そのように評価されるのか、その評価軸の言語化に努める。 中から玉とすべき作品があるとすれば、 **!穽と常に隣り合わせであると思わ** れる。 は、 では、 予定 何をもって 調 玉石 和と

C 朝鮮通信使への新しい 視角

宝 一
暦
使
行 (江戸時代、 第十一 口 を中心に―

発表者 司会者 茨城キリスト教大学 染 谷 智 幸

鶴見大学 金 4

駒澤 大学 近 衞 典 子

大阪大学招聘研究員

玉

からの帰途大坂において、 る 品に通 詩文の交換に依 とり 戸時代に入り十二 信 使行 わけ における日朝文士の交流は、 重 口 蕓 の宝 ったが、 な問題を日 回に 元 この十 使行員 亘 年 本と朝鮮 つ て行われ 明和 _ (都訓導) 回目の宝暦使行 元 内 目の宝暦使行では江戸は、筆談や手紙におけ内外に提起した。一般 /一七六四 た朝鮮通信 の崔天宗が対馬 年) * 一使行、 *の 使 そ

によって交わされる結果となった。またこの事件処理ため、日朝文士の間で詩以外にも様々な文章が筆談・

日朝文士の間で詩以外にも様々な文章が筆談・手紙等[官・鈴木伝蔵に殺害されるという一大事件が勃発した

果的に多くの日朝文士の詩文・記録等が遺されもした。

。それ

一ケ月もの間、大坂に滞留を余儀なくされ、

0)

ため

崔天宗殺害という不幸な事件が起きたにも関わ

|信頼に裏打ちされた深い交流が行われ

0)

公語

京 いたと考えられる。こうした点について幾つかの視点かける日朝交流の問題点と、それを越えての可能性が表出すなわち宝暦使行には通信使行のみならず、江戸時代 K お

とは違った見方を生んでい

実学・北学

が隆盛した時期でもあった。

の眼にも、それまでの夷

 \dot{o}

志向

は当然日本

まずは金文京氏に、宝暦使行 い光を当ててみたい。 0 際に作ら ń 通 信 使 の帰 ら新して

三氏のお話を基に会場との討論に移りたい。めて、康盛国氏からご意見・ご指摘をお願い 図 意見・ご指摘、さらに通信使行全般と朝鮮側からの視座も含 様々な反応(上田秋成の その後日本側から、近衞典子氏に宝暦使行に対する日本側の めて)を基に、新しい角度からのご指摘・ご提言をお願 (韓国·国立中央図書館蔵、 朝鮮文人の間で話題になった、木村蒹葭堂「蒹葭堂雅集 膽大小心録』 日本での本格的紹介は今回 等)を踏まえてのご したい。 13 初

を待って改元され 行われているが、一七六四年は六月に宝暦より 前年八月にソウルを出発し てい 诵 信使行 0 . る。 ÷ 一する。 六月は 回目 主 E 0 朝 韓国 使行 たと考えられることから、 鮮 通信 側、 については宝暦 使が帰国 たことによる) なお癸未は一七六三年、 した後であ 使行、 など様 明 宝 b, 一暦使行と呼 明和に改元さ 和 々な呼称 度使行、 その帰り 通信 使が 玉 が

らず、

同

士の

相

互

らを見ると、

に朝鮮使節は

たことが分かる。

、士の存在と相

那波魯堂、木村蒹葭堂等

Ħ

た日朝

この背景には

南

成

大中、 1本側 0

元重擧 の優れ

朝

鮮

互関心の高さがあったも

が長きに亘

一る小中華思想を脱し、英祖

と思わ

れ

を中心にした新し

(朝鮮朝二十二代、二十三代国王)

小三金五郎物」 の変容と特色

.戸における作品を中心に―

関西大学

三金五郎物」の網羅的な研究は十分に行われてこなかった。 歌祭文・浄瑠璃・歌舞伎・戯作と多岐にわたる。現在まで「小 の小三と歌舞伎役者の金五郎の情話を基にした作品群である。 本発表は中間報告ではあるが、小三金五郎を主人公とする 郎物」とは、 元禄期に大坂で起きたとされ る湯女

ていることがわかった。 小三が他の男を振り切る姿や金五郎から身を引く姿が描かれ ており、 して金五郎の死を描く作品から、二人の心中ものへと変容し 作品の調査を行った。本調査により、上方では巷説をもとに 江戸では二人を紛失した家宝を詮議する武家とし、

にも引き継がれている。このことから「 崎座初演 この小三の描写は、 男を振り切る場面、金五郎から身を引くさまが描かれている。 着目する。「錦絵始」は江戸で小三金五郎を主人公とした最初 した歌舞伎「東都名物錦絵始」(文化八年一月中村座初演 本発表では、これらを整理し一覧したうえで、江 「五郎を定着させた作品といえる。 や人情本 従来の「小三金五郎物」にはなかった小三が他の 浄瑠璃「浮名の立額」(文政二年六月河原 『仮名文章娘節用』 「錦絵始」は江戸で小 (天保元年初編刊行) 戸で成立

ける「小三金五郎物」に与えた影響について述べるもので 具体的な事例を挙げながら、「錦絵始」 が江戸に

|西鶴諸国はなし』 「狐の四天王」

狐の草紙』・越後騒動との関係から

指摘されている。 人僧』『源平へんげあらそひ』の他、 いては、先行研究により『古今著聞集』『宇治拾遺物語』『六 部殿の家来たちによって起こされる怪異譚である。本話につ の四天王」(以下本話)は、 ·原西鶴作、貞享二年刊 大和の源九郎ぎつねの姉、 『西鶴諸国はなし』巻一の七 橋創造大学 民話に想を得た可能性が 島 Ш 於佐賀

思われるものを二つ指摘したい。 本発表では、これらに加え、 西鶴が本話作成に利用したと

れてていたという内容を持つ御伽草子である。 本発表で確認する。 本話のみならず、巻四の一「形は昼のまね」にもあることを される女房に見そめられた老齢の僧都が、 との関係である。『狐の草紙』は、楊貴妃、李夫人も及ばぬと 一つ目は、 室町時代に成立したと考えられる『 実は、狐に化かさ その影響は、 狐 0

もに、越前松平家 姫路藩の姿が描かれていることを本発表で確認する。 する。直矩は、 姫路藩を治めていた松平直矩は、 光長は、将軍徳川綱吉の親裁により改易となる。 である。 二つ目は、本話と越後高田 越後騒動と称されるお家騒動で、越後高田藩主松平 姫路を舞台とする本話には、 騒動に連座して、 一門を代表して騒動の収束に努めるが失敗 藩で起こったお家騒動との関係 姫路から豊後日田に 出雲広瀬藩主松平近栄とと 騒動当時、 に国替え

〈宮本武蔵もの〉実録の展開

愛知県立大学 三 宅 宏 幸

実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、実録の「宮本武蔵物」については中村幸彦氏や菊池庸介氏が、

の踏襲や趣向の利用を指摘する。 の踏襲や趣向の利用を指摘する。 の踏襲や趣向の利用を指摘する。 の踏襲や趣向の利用を指摘する。 で、名、それぞれの内容や特徴を整理する。その上で、名について、それぞれの内容や特徴を整理する。その上で、名系統にあたる『兵法修練談』、『武道小倉袴』、『袖錦岸柳嶋』

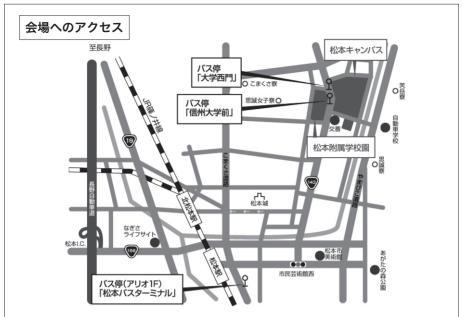
に慣れ親しみ、享受していたことの証左になると思われる。このことは翻って、近世期の人々が数種の〈武蔵もの〉実録る系統の実録の内容を混在させるケースも見られる点である。興味深いのは、実録を単独で利用する場合もあれば、異な

名古屋書肆永楽屋東四郎の出板

同朋大学 服 部

四郎 う少し遡ると思われる。書物販売で力を蓄えてから出板に乗 えられていた。 にして、片野家には、寛延年間(一七四八~五一)創業と伝 り出した、と見るべきではないだろうか。正確かどうかは別 明倫堂督学である。ただし書肆として営業を始めたのは、も 正月刊の岡田新川の漢詩集であろう。 板は、岸氏が指摘しておられるように、安永九年(一七八〇) て詳述しておられる。永楽屋東四郎、 本書誌学大系82 (略称永東) 代後期、 尾張の書林と出版』 の活動については、故岸雅裕氏が、労作 盛んに出板を行った名古屋の書肆 本姓片野氏。 岡田新川は、 (平成十一年刊) におい 最初の出 屋東

である。
「売留」等の対抗策を講じた。権益を侵されたと痛感したから、「売留」等の対抗策を講じた。権益を侵されたと痛感したから後、天保期に至るまで、三都(特に京・大坂)の本屋仲間は、を与えた。即ち、名古屋に本屋仲間が成立したのである。以を与えた。即ち、名古屋に本屋仲間が成立したのである。



JR 松本駅「お城口(東口)」を出て右前方「アリオ」1 階、松本バスターミナルのりば●「信大横田循環線」または「浅間線」に乗車し約 15 分、バス停「信州大学前」下車して(200 円)、進行方向右斜め道路向かいに大学正門があります。人文学部・経法学部・全学教育機構・附属図書館へは、次のバス停「大学西門」下車が便利です。

